

SDGsって何?

持続可能な開発目標 (SDGs) とは、持続可能でよりよい世界を目指す国際目標。17のゴール・169のターゲットから構成され、日本政府も積極的に取り組んでいる活動です。

尾張旭市の取り組み



1	2	3
4	5	6

- 1 マイスター対象事業に参加しポイントを達成された皆さん。10年と5年連続達成者が昨年4月に表彰されました
- 2 例年行う「あさひ健康フェスタ」の様子。子ども向けのイベントも実施して親子で楽しめる内容になっています
- 3 外に出かけたくなるまちづくりとして、市営バス「あさび一号」を運行。都市基盤整備の取り組みにも積極的です
- 4 ウォーキングは気軽にできる有酸素運動。「A-map」を片手に掲載される12のコースを歩いてみては
- 5 SDGsへの取り組みについて、市でも各イベントで紹介。認知度を高め、意識向上を促しています
- 6 平成17年度に始まった「らくらく筋トレ体操」。市内各所で健康づくり推進員が活躍しています

従来は折り畳みの大判サイズでしたが、持ち運びやすいよう冊子に変更。市役所の産業課、情報課などさまざまな部署に所属する若手職員10人がコースの見直しを提言。令和元年の「第70回全国植樹祭あいち2019」の会場になった愛知県森林公園を歩くメモリアルコースやおいしい

化活動も対象として、「まちの健康」や「心の健康」につなげているのがユニークで、積極的に人と、まちと関わるのがポイントにつながります。また、健康増進に役立ててもらおうと力を入れているのが「A-map」と題したウォーキングマップの作成・配布。市内のオススメコースが掲載され、2019年11月末にリニューアルを果たしました。「利用者やコースが長く固定化されていたことを受け、より多くの人に手に取って歩いてもらおうと、内容を大幅に変えました」と市役所健康都市推進室の谷口洋祐さんはマップを手に笑顔を見せます。

「外にでかけたくなるまちづくり」で市営バスの利用者数が増加する一方、交通事故の発生件数は減少、「住み続けたいなるまちづくり」では治安に関する人口千人あたりの犯罪発生件数も減少と成果を上げてきました。これらの活動は、他の自治体にとって学ぶべき点が多いと評価され、WHO・AFHC (健康都市連合) の両組織から16年間で計21度の表彰を受けており、これは日本国内の加盟自治体の最多を誇ります。

令和2年12月1日、市制50周年を迎える尾張旭市では「ともにつなごう あさひの歩み・いま・未来」をテーマに、関連した記念行事を1年かけて実施していきます。尾張旭市出身のタレント、青木さやかさんを市制50周年PR大使に委嘱し、「一緒に市制50周年を盛り上げます。例年行っている祭りなど、既存のイベントも今年は通常よりスケールアップ。市の主催する「あさびーお祝い事業」、市民や団体が自ら企画する「市民お祝い事業」、そして森林公園を活用する事業など、盛りだくさんの事業が市内で展開される予定です。令和2年度は「あさひ健康マイスター」もより充実。市制50周年記念事業への参加や、「A-map」の紹介コースのウォーキングもポイント対象となる他、新しく始まるスマートフォンアプリ「あいち健康プラス」と連携し日常的な健康習慣づくりを応援します。また、尾張旭市では国連が提唱し、市も賛同する持続可能な開発目標 (SDGs) の認知度向上を目指し、あさひ健康マイスターに関連した事業などでPRを進めています。SDGsといっても難しく考える必要はなく、「家の周りを掃除する」、「町内会のお手伝いをする」など、内容はできる範囲で構いません。参加して「一緒に持続可能な健康都市を目指しましょう」。

人もまちも。持続可能な健康都市であり続ける

持続可能な健康都市を目指す

いきいきと健康な尾張旭市

健康都市として日本全国をけん引する存在の尾張旭市。2004年から取り組みを継続してきたことで、年を重ねるごとに市民の健康意識も高まっています。例年「あさひ健康フェスタ」が開催される4月29日 (尾張旭市 健康の日) を控えるいま、改めて健康都市に関する施策を紹介します。

AFHC Healthy City International Forum

The Direction of Healthy Cities in the 21st Century

2019. 9. 25. (水) ~ 26. (木)

강동아트센터 대극장



2019年9月、韓国で開かれた健康都市連合国際フォーラム。森和実尾張旭市長 (左から2人目) が参加しました

日本国内の自治体でいち早く健康都市を宣言

尾張旭市が「健康都市宣言」をしたのは16年前。人もまちも健康であり続け、持続可能な地域として発展しようという願いが、「健康都市」という言葉に込められています。

WHO (世界保健機関) は「先進国における都市生活者の増加などにより、大気汚染、人々の生活習慣病の増加が予想される。人だけでなく、暮らしやすい健康なまちである必要がある」と世界に提言。

この考えに賛同した尾張旭市は健康都市に向けた施策を実施すべく、2004年6月、「健康都市連合」へ加盟。翌年、静岡県袋井市、千葉県市川市、沖縄県平良市との4市で健康都市連合日本支部を設立しました。今では世界190の地域、国内では42の自治体が加盟。尾張旭市はスタートアップメンバーとして、16年の歴史を重ねています。

2004年から今日まで継続している取り組みのひとつが「寝たきりにさせないまちづくり」です。運動習慣のある40〜70代は愛知県平均で男性30・1%、女性30・8%。それに対し尾張旭市は男性36・6%、女性38・1%と、いずれも県内市町村で1位。また、市民にとって馴染み深い「らくらく筋トレ体操」も、初年度である平成17年度の自主グループ2団体79人の参加から、平成31年3月には自主グループ65団体、1507人が取り組むまでに成長。尾張旭市のオリジナルプログラムで運動の喜びを実感しています。

手帳や刷新したマップでアクティブな活動を

さまざまな取り組みのなかでピックアップすべきひとつが、2008年から実施している「あさひ健康マイスター」。「あさひ健康マイスター手帳」が市内公共施設に置かれ、小・中学校でも配られています。自治体が配布する健康増進を目的とした同種の印刷物は、一般的な物でA4用紙1枚ほどですが、尾張旭市はその名の通り手帳で46ページと内容も充実しています。

市内で行う行事を「安全・安心」、「文化・スポーツ」とジャンルごとに記載し、参加することにポイントを貯められます。150ポイント以上で表彰対象となり、50ポイント以上から応募可能で抽選で副賞が当たるチャンスも。体を使った運動だけでなく、町内会への参加、PTAや町の美報を盛り込みました。

市制50周年を目前に記念事業がパワーアップ

令和2年12月1日、市制50周年を迎える尾張旭市では「ともにつなごう あさひの歩み・いま・未来」をテーマに、関連した記念行事を1年かけて実施していきます。尾張旭市出身のタレント、青木さやかさんを市制50周年PR大使に委嘱し、「一緒に市制50周年を盛り上げます。例年行っている祭りなど、既存のイベントも今年は通常よりスケールアップ。市の主催する「あさびーお祝い事業」、市民や団体が自ら企画する「市民お祝い事業」、そして森林公園を活用する事業など、盛りだくさんの事業が市内で展開される予定です。令和2年度は「あさひ健康マイスター」もより充実。市制50周年記念事業への参加や、「A-map」の紹介コースのウォーキングもポイント対象となる他、新しく始まるスマートフォンアプリ「あいち健康プラス」と連携し日常的な健康習慣づくりを応援します。また、尾張旭市では国連が提唱し、市も賛同する持続可能な開発目標 (SDGs) の認知度向上を目指し、あさひ健康マイスターに関連した事業などでPRを進めています。SDGsといっても難しく考える必要はなく、「家の周りを掃除する」、「町内会のお手伝いをする」など、内容はできる範囲で構いません。参加して「一緒に持続可能な健康都市を目指しましょう」。



健康都市推進室 谷口洋祐さん
健康都市は住民の皆様の協力が不可欠。市からもさまざまな呼びかけを行っています